

聖見八犬傳
第四輯
卷四

3416
1913



踏所^{ふみどころ}。こももあぢう房八と沼菡がほちまふ身を投^なげけり。哽^{なげ}かり泣^{なみ}沈^{しづ}ま。且^{かつ}くく目を拭^{ぬぐ}ひ喃房八豫^{なげ}くの歎^{なげ}死^しのやまう。かづらぬ旅^{たび}の伴^{とも}侶^りの息^{いき}息^{いき}え孫^{まご}さへ放^{はな}遣^やる。こころをひらをいづめり。聖^{あき}きうり又^{また}誰^{たれ}を友^{とも}推^{おし}をよぶか慰^{なぐさ}ん子を先^まぞく幸^{さい}ち死^しのの。あまとはる世^よの例^{よめ}ゆもあうり入^いらん悲^{かな}しさ。寝^ねぐまぬ宿^{やど}小^こ獨^{ひとり}不^ふ樂^{らく}く。苦^{くる}しんしの夜^よを曉^{あけ}えん。切^{せめ}くおん刃^{やま}の勇^{ゆう}しん最^{さい}期^きを看^み一^{ひとめ}看^みべやとく。竊^{ひそ}宿^{しゆく}を起^{おこ}せ又^{また}おの檐^{のき}下^{した}小^こ牙^がよけ且^{かつ}ど。とてもかくても存^{あか}命^{いのち}ぬ。こが子^こと知^しらる^る迹^{あと}追^おう。哭^{なき}小^こ牙^がると叱^{あや}らまん最^{さい}期^きの越^こえ彼^{かれ}のいのま。るの竊^{ひそ}宿^{しゆく}の逢^あひ逢^あひ返^{かえ}らん。とどくとも足^{あし}の進^ままねが用^{もち}ぬ戸^と口^{くち}小^こ牙^がを倚^よけけり音^ねゆをこそ孫^{まご}夏^{なつ}虫^{むし}のひより焦^{こが}ましく又^{また}濡^ぬまき檐^{のき}の玉^{たま}水^{みづ}これらふ。両^{ふた}涙^{なみだ}の外^{ほか}あつたれかうるべしと知るるがか沼菡^{ぬまが}を送^{おく}りか下^{くだ}のせで。大^{おほ}八^{やち}をさへ隸^かての末^{すえ}さう。鳴^なの羽^は播^はる百^{ひゃく}羽^は播^はれか口^{くち}説^せどももる月^{つき}盡^つぬこが這^こ悔^{くわい}とかな

一^{ひと}ふのひらぐらう大^{おほ}田^{でん}ぬ。まきの憾^{うらみ}のうらうらうん後の歎^{なげ}死^しと今^{いま}宵^よぞと知^しらる。よもるれと歎^{なげ}喃^{なげ}か沼菡^{ぬまが}吾^{われ}侑^{たす}け豫^{なげ}く事情^{じやうけい}を知^しらる。おん刃^{やま}小^こ牙^が告^つげり。公^{こう}つうと恨^{うらみ}まえ惜^{あは}れや利^と鎌^{かま}小^こ嬬^{じゆ}草^{そう}の霜^{しも}小^こ先^{せん}さう幸^{さい}ちあふ。さふあても大^{おほ}八^{やち}か最^{さい}期^きへ特^{とく}小^こ送^{そう}憾^{うらみ}。やよ孺^に兒^こよ祖^そ母^ぼもぞおのうらうら。と亡^な骸^がを抱^{かか}りとる。揺^ゆ動^{どう}くと又^{また}哽^{なげ}く千^ち行^{ぎやう}の淚^{なみだ}ハ岩^{いわ}走^はる瀧^{たき}のいとせめく。碎^{くず}る白^{しろ}月^{つき}の苦^{くる}しさ死^しかか。かこもる歎^{なげ}死^しせり。沼菡^{ぬまが}ハ有^あ繫^ける姑^こ嬢^{ぢやう}の声^{こゑ}ハ受け哀^{あは}傷^{やう}と深^{ふか}瘻^{ろう}息^{いき}を吻^{くち}むき。房^{ふさ}ハ共^{とも}侶^り弱^{じやく}る心を励^{あきら}め。母^{はは}れよ。このまうち歎^{なげ}死^しく病^{やま}じづとひ。あま。父^{ちち}の送^{そう}訓^{くん}を果^はさん。身^みを殺^{ころ}せ。母^{はは}孝^{かう}ちとむ。子^こ小^こ牙^が不^ふ慈^じの行^{ぎやう}心^{しん}。あま。一^{ひと}ハ是^{こゝ}れ。而^{しか}も非^ひと孝^{かう}道^{だう}定^{じやう}ふ難^{なん}る便^{べん}りさく。死^し母^{はは}のる。頼^{たの}む。阿^あ舅^{きう}犬^{いん}田^{でん}殿^{でん}。日^ひ是^{こゝ}れ。頼^{たの}む。身^みの息^{いき}わ。程^{ほど}を苦^{くる}惱^{なう}け。とくこの布^ぬを解^とけて。と。のそ。と。小^こ文^{ぶん}吾^{われ}ハ慰^{なぐさ}め。うら。嘆^{なげ}息^{いき}。と。是^{こゝ}れ。誤^{あや}ま。妹^い夫^ふを敷^敷く。又^{また}誤^{あや}ま。妹^いを

良人の鼓もどり。父といふとも誰を恨ん大家よ。歎死に理りちるまども今更
 千萬口説も要ち。後世のいとも肝要ちるんと諫る。軀て房八がほとり近く
 刃をよそく。布引解へ漬る。鮮血を受る。法螺の貝吹く。非常の風をよそ
 死天の山伏。岩登り。岩廻む。鷲の峯入。夫婦身を掖。子を負て。往方ハ
 十萬億佛土。蓮の基法。雲踏ま迷ひて。薦めたる。母もあやしく。唱名乃
 声も涙も口隠り。さる程。小犬塚。信乃ハ。曩。小文吾と。房八がうち合し。さる
 大刀音の子。舎へゆき。え。事。そわと。安。る。ぬ。白。月。を。鎮。め。苦。痛。を。忍。び。て。
 身を起さんとあつても。腰の立。杖。枕。迎。る。刀を合。杖。小。身。を。坐。行。と。云
 息と。吻。死。幾。間。も。あ。ぬ。家。の。内。を。虫。の。跂。如。く。出。居。と。前。房。の。間。を。る。
 障子のほり。小。あ。つ。と。死。房。八。を。や。痠。を。負。て。その。赤。心。を。諦。し。彼。條。の
 物。さ。う。その。妻。の。子。の。横。死。の。さ。え。や。て。病。苦。も。外。小。あ。る。ま。ど。且。殺。馬。さ

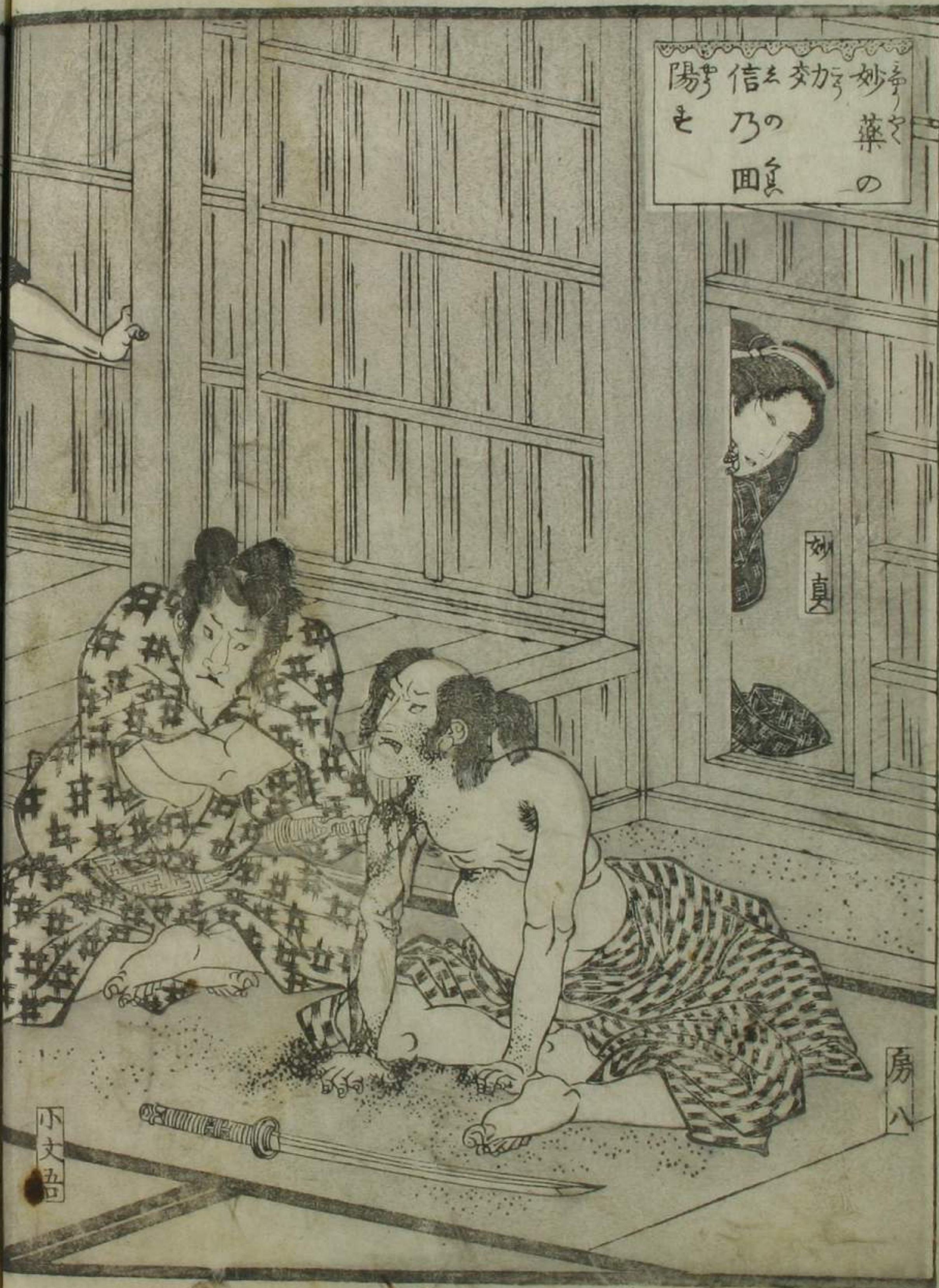
且悼。感涙を禁。あ。ま。人。を。さ。げ。力。も。と。ろ。り。と。僅。小。障。子。一。隔。め。と。その。如。く
 よ。あ。る。の。涙。も。ま。ま。苦。痛。頻。ふ。堪。え。け。し。ま。と。さ。や。其。如。く。俯。を。り。か。さ。又。小。文。吾。ハ
 信乃が。為。小。房。八。夫婦。の。鮮。血。を。見。小。盛。る。及。び。信乃。を。愀。然。と。て。中。を。る。
 頭を擡。わ。ら。あ。や。生。を。好。一。死。を。憎。む。則。天。の。心。を。り。君。子。ハ。庖。厨。を。遠。ざ。る
 と。そ。い。あ。る。小。今。コ。が。命。終。ま。と。も。い。う。で。久。美。士。節。婦。の。血。を。め。く。菜。削。み。せ。る。所
 つ。れ。人。の。心。操。を。貴。ぶ。べ。く。謝。し。且。受。へ。る。彼。房。八。が。孝。あ。る。義。あ。る。
 類。を。古。今。小。ヨ。ク。得。る。コ。が。力。も。羽。立。保。う。け。ん。息。の。内。小。對。面。し。志。を。告。ぐ。や
 と。辛。く。坐。行。と。進。近。つ。死。障。子。の。腰。小。掛。掛。て。も。閉。る。な。ら。ど。の。力。が。あ。る。
 ち。を。果。一。身。の。衰。微。を。い。と。朽。を。く。ら。ひ。り。當。下。小。文。吾。ハ。鮮。血。を。見。小。受。し。が
 房。八。へ。と。く。與。へ。と。頤。め。頻。進。る。小。小。文。吾。猜。し。と。ち。頭。甲。夜。より。異。ち。る
 事。小。紛。ま。と。下。も。彼。人。の。病。を。訪。り。暇。あ。る。ま。ど。今。下。も。心。の。か。く。ま。と。小

調ひ。良薬を空せんや。さりとて。さづふ身を起し。溢るまじ。血を盛る。
 梭尾貝を右ふ持。子舎へそ遠く。障子を沙羅と引開。進む。え
 と。程ふ。さ。信乃。足踏み。跌。持。貝。忽地。破。落ち。
 信乃。肩。脛。腓。透。間。血。沃。衣。羅。肌。膚。徹。
 彼。瘡。口。流。入。苦。叫。び。仰。反。小。文。吾。の。教。馬。遠。て。ん。
 是。信。乃。ち。り。け。り。そ。も。の。程。より。致。犬。塚。の。小。牙。り。けん。不。思。致。獲。
 良。薬。を。ち。落。せ。て。の。惜。さ。り。て。や。え。ん。か。せ。ん。と。後。悔。さ。ふ
 た。の。よ。も。さ。く。項。と。腋。へ。成。か。け。起。せ。も。も。氣。息。さ。声。あり。立。て。呼。泣。
 尙。念。玉。が。覚。り。せ。ん。と。久。し。ば。奥。小。憚。あり。の。ふ。と。と。氣。を。向。く。あ。ま
 ざ。ぬ。勲。ふ。ぞ。妙。真。も。の。為。体。を。外。見。ん。は。さ。げ。め。く。行。燈。の。灯。口。推。向。て
 の。め。と。向。の。程。信。乃。の。睡。の。覚。る。が。如。く。身。を。戦。し。目。を。開。け。吻。と。自。心。
 起。る。画。色。忽。地。回。陽。と。枯。枝。小。花。さ。く。如。く。腫。色。つ。れ。金。瘡。の。瞬。間。小
 結。痴。邪。熱。袪。れ。身。の。軽。く。元。氣。平。日。の。い。や。ま。と。心。地。清。々。さ。く。さ。く。さ。く。さ。く。
 小。文。吾。の。の。光。景。は。再。び。呆。れ。り。泣。び。つ。ら。行。心。こ。ち。被。一。藥。血。の。効。る。け。り。
 と。そ。め。く。曉。ア。と。面。を。起。し。扱。云。と。と。さ。ゆ。らん。妙。真。も。亦。が。子。夫。婦。の。乃。と。
 い。と。本。意。わ。ら。を。稱。多。當。下。信。乃。の。形。を。儼。し。小。文。吾。ふ。ち。對。ひ。曩。小。大
 刀。音。の。ゆ。め。さ。り。の。の。と。ひ。の。さ。ふ。苦。痛。を。刃。び。身。を。坐。行。し。と。さ。つ。ま。で。ま
 ず。の。ま。も。障。子。を。開。き。と。は。さ。む。俯。々。緯。の。趣。を。ち。ゆ。り。か。く。小。感。あ。つ。て。
 さ。ら。れ。彼。夫。婦。の。血。を。の。く。破。傷。風。小。汰。ん。の。心。び。ぐ。り。行。る。と。推。諱。さ。
 と。の。み。踏。不。踏。ま。の。失。ゆ。く。ち。被。ら。ま。鮮。血。の。効。致。病。痾。立。地。小。本。復。し。の。
 今。更。辭。さ。り。由。さ。り。と。そ。の。恩。を。謝。し。義。を。感。じ。且。妙。真。を。慰。め。共。侶。小
 房。八。が。ほ。う。ふ。い。め。く。對。面。一。姓。名。を。生。り。と。そ。の。義。勇。を。譽。恩。德。を。稱。め。と。の。

起る画色忽地回陽と枯枝小花さく如く腫色つれ金瘡の瞬間小
 結痴邪熱袪れ身の軽く元氣平日のいやまと心地清々さくさくさくさく
 小文吾のの光景は再び呆れり泣びつら行心こち被一薬血の効るけり
 とそめく曉アと面を起し扱云ととさゆらん妙真も亦が子夫婦の乃と
 いと本意わらを稱多當下信乃の形を儼し小文吾ふち對ひ曩小大
 刀音のゆめさりののとひのさふ苦痛を刃び身を坐行しとさつまでま
 ずのまも障子を開きとさはさむ俯々緯の趣をちゆりかく小感あつて
 さられ彼夫婦の血をのく破傷風小汰んの心びぐり行ると推諱さ
 とのみ踏不踏まの失ゆくち被らま鮮血の効致病痾立地小本復しの
 今更辭さり由さりとその恩を謝し義を感じ且妙真を慰め共侶小
 房八がほうふいめく對面一姓名を生りとその義勇を譽恩德を稱めとの

死を憐み今生の交る日の久しうとて歎きたる。又いふや。其もたつとも
 和殿夫婦の恵より難治の金瘡愈ふとも。和殿夫婦を生むる良薬
 られたる恨らむ。これ幸ゆと難を脱し志を得る。あはれ。この衣を深
 鮮血を後までも和殿。この恩徳を子孫に傳へ親の送別を守り。わ
 ぬらた心を解け。死でも事の済む。可憐義勇の丈夫のその方のとく
 妻をも子をも殺す。天道暗く似たり。嗚呼。あはれ。命とりの。且母
 御持のいと賢なる内室のいと貞なる。その子も成長る。忠孝義勇親小角と
 世の馬傑たる。死後。うらなひいと惜ま。加梅大田親子も亦是忠信孝
 義の人なり。斯良谷の人の縁を結び義小仗を。彼枉津日の神変。我家の
 艱に勲。小夏事。船中。死。救。と。い。ゆる。あ。は。れ。今。又。難
 治の病著。不思議。愈。も。救。ひ。を。経。を。補。も。菩提。を。吊。も。良。馬。回。向。も。

法師の所為。何れ。か。の。思。義。小。剛。と。や。と。感。嘆。の。涙。を。沃。ぐ。露。の。玉。
 清。心。を。あ。ら。ま。さ。る。小。文。吾。も。妙。真。も。人。の。誠。の。優。く。いと。理。り。と。あ。ふ。の。と。尉。め。
 一。秋。心。嘆。の。外。小。辞。の。あ。ら。ま。け。り。そ。が。中。小。房。へ。絶。え。ん。と。る。氣。を。引。起。し。と。
 歡。一。は。信。と。ん。之。の。君。子。ち。ち。大。塚。ぬ。信。あり。義。あり。賞。美。の。言。の。兼。善。
 知識の引導も千萬僧の説法も。あはれ。と。あ。は。れ。と。あ。は。れ。と。和。君。の。難。瘡。本。復。
 進。退。更。も。自。在。な。ら。ん。か。と。か。頭。り。く。彼。帆。大。夫。亦。を。欺。れ。と。
 水。陸。の。守。兵。を。退。け。後。中。と。和。君。を。落。し。と。あ。は。れ。の。羽。の。縲。纒。を。解。せん。以。錯。
 このむ大田殿。と。頭。を。と。い。と。せ。が。小。文。吾。頻。小。嗟。嘆。と。そ。の。早。う。山。林。
 數。刺。深。瘡。小。屈。せ。と。今。ま。でも。あ。は。れ。と。勇。悍。和。殿。の。如。く。と。あ。は。れ。推。う。と。
 か。く。あ。は。れ。と。瘡。の。灸。所。小。係。り。綴。名。醫。の。門。小。立。とも。存。命。べ。く。も。あ。は。れ。と。
 れ。が。亦。その。意。後。の。と。ん。や。と。い。と。今。ま。影。護。は。も。已。と。成。り。全。實。も。宿。



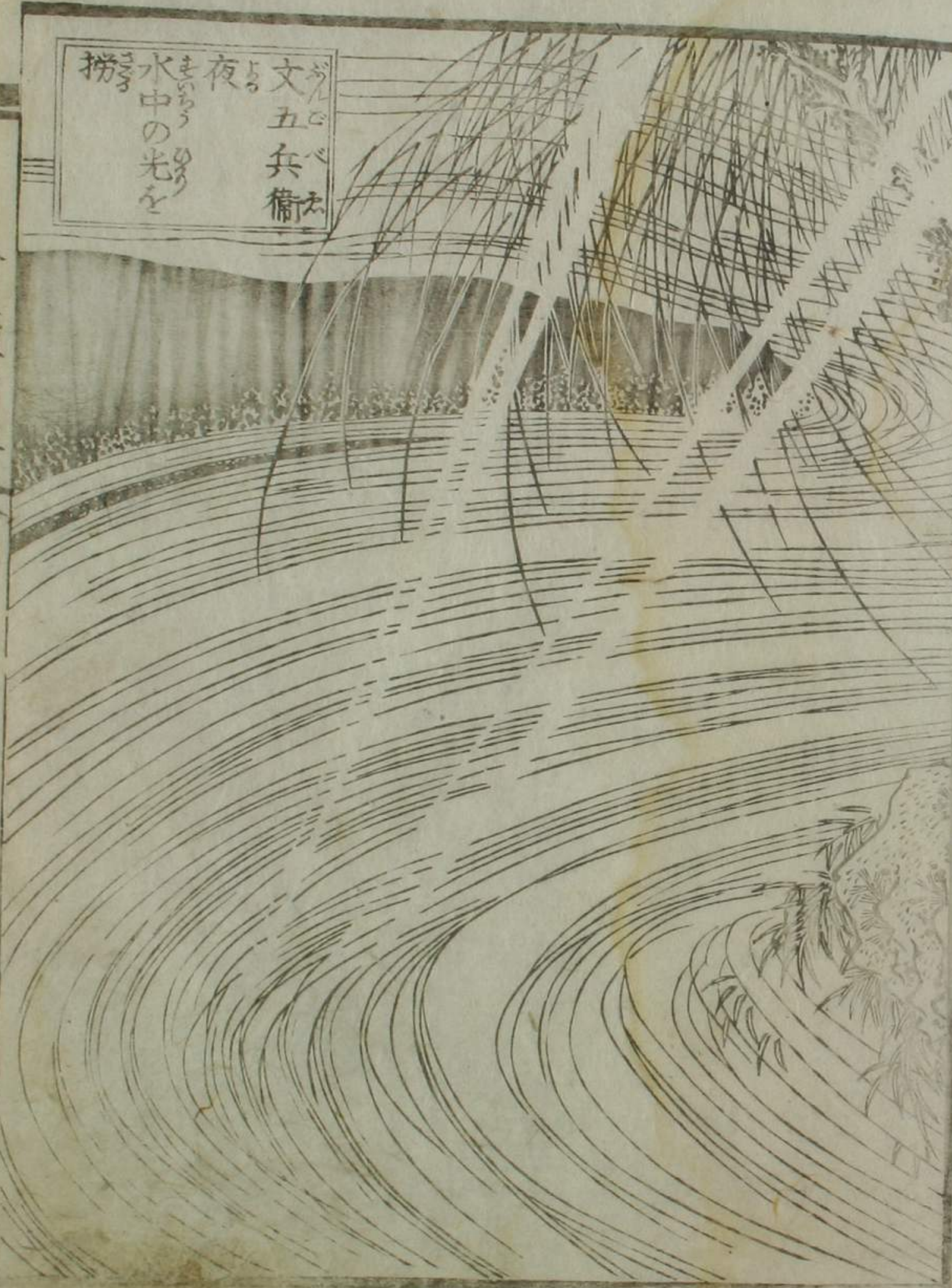
兩^ああ^れり^く。枯^こる^稿稿^ハ束^束穂^穂を^はつ^つふ^もも^も勝^勝る^るべ^い。そ^そか^中中^妙妙^真真^ハ秋^秋び^ああ^ある^あ
 涙^{なみだ}を^な拭^ぬく^小小^文文^吾吾^と共^共侶^侶小^小又^又も^も負^負ホ^ホを^を慰^{なぐさ}め^る。耳^{みみ}の^の辺^へは^は声^{こゑ}立^たく^房房^ハよ^よや^や
 ぬ^ぬい^ぬ。沼^{ぬま}菖^{あやむぎ}蒲^よ大^大ハ^ハ魁^{すい}主^{しゅ}し^し。如^{ごと}此^{この}の^の奇^き特^{とく}あり^{あり}。こ^こに^に見^みえ^えと^と稚^ち児^こを^を引^ひき^きて^て見^みせ^せ。
 玉^{たま}を^を見^みせ^せ。や^や喃^{なん}と^と呼^{よび}活^かま^ま房^房ハ^ハ中^{ちゆう}中^{ちゆう}を^をな^なぐ^ぐ点^{てん}頭^{とう}。原^{げん}来^{らい}こ^こが^が子^こハ^ハ宿^{しゆく}世^せあり^{あり}。渠^{かね}を^を
 坐^ざ艸^{そう}の上^{の上}より^{より}え^えと^と左^さの^の卷^{まき}を^を撥^{はら}け^け。任^{にん}弱^{じやく}者^者と^と賤^{せん}め^めと^と大^{だい}八^{はち}の^の渾^{こん}名^なを^を負^おせ^せ
 ら^らと^とも^もか^かま^まで^で小^{せう}親^{しん}ま^まは^はけ^けと^と勝^{かち}る^る。渠^{かね}その^{その}玉^{たま}を^をと^と悲^{あは}れ^れば^ば大^{だい}士^しと^と誰^{たれ}の^の
 ざ^ざん^んを^を真^ま土^{つち}の^の鯨^{くじら}別^{べつ}小^{せう}受^うる^る親^{しん}と^と果^{くわ}報^{ほう}も^も母^{はは}も^もさ^さを^をわ^わわ^わる^る。ゆ^ゆめ^め連^{れん}
 よ^よ子^こを^を産^うめ^めと^と登^{のぼ}り^りと^と沼^{ぬま}菖^{あやむぎ}ハ^ハ目^めを^をむ^むせ^せ。あ^ある^る秋^{あき}や^やと^とむ^むる^る。未^ま末^{まつ}期^きの^の二^に句^く
 果^{くわ}敢^{かん}も^も玉^{たま}の^の緒^{いと}終^{はつ}小^{せう}結^{けつ}よ^より^り。喃^{なん}の^の惜^{あは}れ^れと^と妙^{めう}真^まを^をむ^むる^る。死^し骸^{がい}よ^より^りか^かけ^けと^と
 呼^よせ^せと^と也^や。ゆ^ゆめ^め人^{ひと}の^の数^{かず}少^{すく}入^いる^る親^{しん}と^とあ^あら^らと^と大^{だい}ハ^ハ母^{はは}泣^なく^く乳^{ちゅう}汁^{じゅう}賜^{たま}へ^へと^と
 携^{たづ}る^るを^を躬^こと^と小^{せう}文^{ぶん}吾^ごハ^ハそ^その^のせ^せぬ^ぬめ^めと^と後^{うしろ}と^と抱^{いだ}え^え。田^{でん}め^めて^ても^もと^とめ^めあ^あぬ^ぬ。涙^{なみだ}ハ^ハあ^あら^らと^と

哀^あ別^{べつ}離^り苦^く顔^{がん}を^を背^{そむ}け^け。法^{ほふ}然^{ぜん}と^と告^つ田^{でん}下^げ戸^こ山^{さん}の^の妙^{めう}真^まハ^ハ頭^{とう}を^を擡^たげ^げ。ち^ちか^から^らと^と大^{だい}
 等^{とう}す^すふ^ふち^ち對^{たい}ひ^ひ孫^{そん}大^{だい}ハ^ハが^が生^なれ^れる^る。小^{せう}丸^{まる}の^の卷^{まき}を^を撥^{はら}き^き。胎^{たい}内^{ない}よ^より^りか^かの^の玉^{たま}を^を握^{にぎ}り^りと^と
 故^ゆゆ^ゆ。彼^か伏^{ふく}姬^ぎと^と中^{ちゆう}ん^んの^の菩^ぼ提^{だい}を^を吊^たせ^せる^る。道^{だう}徳^{とく}の^のお^おん^ん。或^{ある}觸^ふる^ると^とち^ち
 ひ^ひら^ら。幾^{いく}く^くべ^べ死^し為^なる^る。死^しと^と曉^{あき}して^{して}も^もる^る。怪^{あや}し^しく^く。侍^{しやく}を^を就^{しゆ}す^す。こ^この^の孫^{そん}を^を大^{だい}ハ^ハと^と呼^よぶ^ぶ。人^{ひと}乃^{なり}
 負^おせ^せ。渾^{こん}名^なめ^めく^く。片^ぺ輪^{りん}車^{しや}と^とい^いひ^ひ。進^{しん}實^{じつ}ハ^ハ真^ま平^{へい}と^と名^なけ^け。房^{ぼう}ハ^ハ親^{しん}の^の字^じを^を真^ま兵^{へい}衛^ゑと^と
 呼^よぶ^ぶ。こ^この^の真^まの^の字^じを^をか^かと^とす^す。祖^そ父^ふが^が如^{ごと}此^{この}命^{めい}。氏^しハ^ハ則^{すなは}ち^ち大^{だい}江^{かう}ゆ^ゆ。家^け號^{ごう}も^も犬^{いぬ}
 江^{かう}屋^いと^と呼^よぶ^ぶ。今^{いま}こ^この^の名^なも^も亦^{また}犬^{いぬ}と^とい^いふ^ふ。字^じを^を冠^{かん}せ^せ。い^いも^も不^ふ思^し。後^ごの^の因^{いん}縁^{えん}
 あり^{あり}。願^{ねん}ふ^ふ。今^{いま}よ^より^り孫^{そん}ガ^ガ名^なを^を大^{だい}江^{かう}真^ま平^{へい}と^と呼^よぶ^ぶ。物^{もの}の^の数^{かず}少^{すく}。足^あと^とも^も大^{だい}士^しの^の
 後^ご小^{せう}居^こと^とい^いふ^ふ。今^{いま}目^めを^を閉^しる^る。親^{しん}へ^へ孝^{かう}養^{やう}す^す。且^{かつ}小^{せう}の^の死^しと^と呼^よぶ^ぶ。と^と涙^{なみだ}を^をな^なぐ^ぐ。小^{せう}か^かれ^れ口^{くち}
 説^{せつ}ば^ば。大^{だい}ハ^ハゆ^ゆと^と莞^{わん}尔^にと^とう^うち^ち笑^{わら}ふ^ふ。哉^{やい}。祖^そ母^ぼの^の情^{じやう}願^{げん}。氏^しも^も家^け號^{ごう}も^も主^{しゅ}を^を識^しる^る。大^{だい}江^{かう}
 あり^{あり}。亦^{また}奇^き。且^{かつ}其^{その}親^{しん}房^{ぼう}ハ^ハ身^みを^を殺^{ころ}す^す。仁^{にん}を^をあ^あせ^せ。よ^より^りと^と其^{その}子^こハ^ハ仁^{にん}の^の字^じの^の見^みれ^れる^る。

王を治る。仁の五常の最なるもの。運天の心あり。賢者もこの居ると難。今真の
 親の代り。犬士の隊に入るもの。その真の字を。と讀む親の字。小字更。八江
 親兵衛仁と名告ぐ。その子あり。親を。房へ再生。犬士の隊に入る。小等。
 且房の二字を轉倒せ。是則八房。沼菰を轉倒せ。是則八房。犬富山。因あり。又妙真。真俗
 戸山と富山と和訓ある。俱小名詮自性。八房の犬富山。因あり。又妙真。真俗
 二諦一念三千の妙旨あり。その夫の子。その婦と俱小清果を得るの義あり。その
 禍の胎を推せ。房八が祖父あり。一。平が失く。光弘。ぬを犯せ。壁。妻。玉。梓
 時を。臣定包を佐け。主家を横領せ。小起。又福の基を推せ。平が
 獨子あり。大江屋真兵衛。その性直。かく。その子孫。為。舊。怨。を。釋。んと欲。と。
 慈。善。の。誓。願。を。發。せ。と。果。さ。る。その。子。房。八。送。命。を。守。身。を。殺。し。仁。を。る。と。
 則二世の功德。小生。因果の脱。と。鳥の林。小集。如。く。虫の草。小取。く。

如。一。只。悟。り。死。の。か。ま。ぶ。その。死。を。歎。く。と。ま。む。口。の。生。を。樂。む。と。ま。む。と。
 と。鮮。示。せ。食。稍。之。明。の。醉。さ。めて。有。一。阿。と。感。ト。當。下。小。文。吾。膝。を。進。め。と。大。木。よ。
 の。中。道。德。の。教。化。の。も。か。あり。就。又。一。條。の。奇。談。あり。外。姪。大。八。の。親。兵。衛。が。王。を。
 握。り。生。ま。し。る。今。さ。ら。合。さ。る。と。其。終。角。あり。時。二。親。の。夜。話。小。往。時。寬。正。
 三年の比。と。この。入。江。河。の。水。中。小。夜。多。く。光明。を。放。つ。と。あり。人。ま。怪。し。む。と。
 怖。と。水。底。を。撈。る。もの。と。父。文。五。兵。衛。の。年。來。漁。獲。を。嗜。ふ。一。夕。網。を。擡。て。
 入。江。河。原。小。抄。を。件。の。光明。を。心。わ。て。小。網。を。お。ろ。す。物。小。羅。ら。ね。
 其。知。小。望。を。失。う。と。小。宿。呀。の。次。の。日。網。を。乾。さ。と。引。揚。ぐ。擔。載。
 と。小。網。の中。小。物。あり。漏。落。と。お。ろ。く。と。音。小。け。と。の。年。沼。菰。の。二。十。八。
 親。の。網。を。乾。さ。と。小。物。あり。彼。落。と。と。小。死。物。を。撮。り。口。小。入。と。
 一。父。を。吐。嗟。と。驚。て。その。口。中。指。を。さ。り。入。と。位。を。も。厭。む。探。り。く。も。吞。下。

文五兵衛
夜
水中の光を
撈



文五兵衛

六九傳四車卷四

山月堂

是日員外の犬士ふおれ。望足りといと答る間ぬあろそ。惜む別を促し貞よ。
 時ぬ鶏の声立ち天へ明るんを。乱れ鳴く房八耳を傾く。そや鶏明を東を
 ちりまん。歎れふよりて時後まらぶ。こが死も遂に空事なり。阿舅。こ公錯あむ。
 こそと焦燥ぬを小文吾へ今更に推辞せたるぬ。猛死覚期ぬを。當下
 足も進まも巻も捲も。心をあつ立ちひり。當下蛸崎照文の房八小文吾よ
 うち對ひて人よく。言を聴け促もとも。惜むとも生死を天理自然ふ。亦
 しゆもほげとむ。む。父十郎の伏姫富山入りひり。日ぬ傳を命せと。
 直に汗馬に鞭うち。姫うを追なり。彼山河のをた瀬と。こさんとまら。復人馬
 俱に推流さ。其ぬ命を損下。まら。某此度君命を稟なり。大約関の
 八州に賢良武勇の雋傑を募んと欲ま。程は。大法師小環會。その引接に依
 ち。伏姫上のちん子。小答。四犬士。相見え。賢を括くの本意。小稱へ。こま。

山林房八郎のその義その勇犬士。非命ぬ。今終るとも。宜里見の家臣。さ
 へ。君公の徵書。の。小あ。拜受。夜堂。就ぶ。その子親兵衛幼少とも。
 君臣二世の恩義深る。身後の栄子孫の為ふも。亦。や。と。薦場のころを
 速く小四方。一通を取あ。房八が額に翳させ。又小文吾をえ。大田生
 この意をひる。欽房八郎。け。り。里見殿の家臣。とも。その為必死。乃
 深瘡を負ぬ。忠勤。餘日。只その僚友。犬塚信乃。が。厄代り死を救。ぶ。
 主君の為。等。是莫大の忠。義を救。ひ。深瘡と知。つ。い。ま。ま。ら
 苦痛を。存。分。錯。も。亦。惻。隱。を。將。大。と。武士。魂。小文吾。有理。と。必。ひ。り。と。腋
 刀引。搜。身。を。起。せ。房八。莞。尔。と。うち。咲。く。鄙言。よ。の。人。の。武士。世。の。唯。ま。け。蛸。崎
 ぬ。尊。意。謝。さ。る。餘。あ。つ。こ。の。賤。れ。船長の子。生。ま。も。幸。あ。つ。て。武。門。へ。入。り
 その死を。ゆ。り。ま。が。阿舅の。刃。を。勞。せん。の。分。錯。と。堂。を。合。し。項。を。伸。り。る。

現八勇力
ええどや
三間者
麿金小す



照文



小文吾



天飼現八

子孟六

均太

八代傳四車卷四

山崎堂清

るを是則甲夜ふまの塩漬の鹹四郎よと訝る程も敵を左右小
 扱きと内ふ入るのわをこんまが犬飼現八え拉れら間者ハ是鹹四郎が等
 類る牛根孟六と板扱均太あり。大カ小締著らま目とそとま小舌を吐き
 向苦しむ息吐ぬを當下信乃ハ立かりま。樞戸を闔ハ現八ハ兩敵を二度小
 控と投累ねく膝小引布れ動せま小文吾信乃ハ又對りの中。某是裏志
 婆浦へ赴れく破傷風の薬を求め小彼薬店への年鎌倉へ移住し
 今ハ彼知ふやとゆり忽地地王を失ひつ。惘然ととちのハ中。まより又鎌倉へ
 いのぶいつをまもきとけふ翌日ハ還りて。犬塚生ハ大病ス。且往返日
 過ぎがよや薬を購得るとも輒射の窮を救ふ不足と。ま立かりま大田
 親子小より成告く相譚ぐ。まはせんまのまをまと肚裏小尋思し。まま小
 取らぬと且くも途小甜のま只音急なゆり程小丑之の比及小門までか

著しうご裡面ゆりま。まの聲ゆえり。訝け且小仇き入らま。ま
 定めく後ゆそとありま彼知小立在り。あつどの翁が不慮の窟陀山林夫婦
 この子の。犬塚生も幸ひ小難瘡早小愈り。大道徳と登崎ぬの
 う入大々まゆり。まの哀しと潰ま。宵ハあつら。ま進ま
 山に深瘡を負ぬその妻のま。緯絶く犬塚不思議
 平愈る。今圓坐小著り。死ま。人の生るふあは。ひあ
 何とま。ひのま。天の明るま。ま。外を防ぐ小ま
 まのわら。ま。駒鬣ぐ袖垣小身をよせて音もせ。時を根せが
 果し。二個の癖者小庇向ち。壁を穿く。童子の下小身を潜し。緯ま。ねと
 ち。蚊小刺ま。尻を搔れ。蟬網か。面を拊。二人齊一庇向より。暇暮
 の如く小跋。檐下。立取。合彼罪人信乃。汝も。欲。れ。認。り。

山青堂藏 廿二

とて官許許す甲夜の怨を復さべく賞錢への小願つべしとて走れと密
 語る歩を竊く共侶ふまんとする後より某矢庭に跳菟と一賊が衿上搔
 廻り引戻しと梓胡せが残る西賊ハ駭怒り打んと巻を肉を下を拂く
 筋斗らせ起んとす初の一賊を又搔廻り裡面へ投入するはあまじきふ
 組んとせし西賊を左右小控より一人も漏さむかの如しと辞せしと告る
 小文吾のく多く救びこの三個の癖者の名を云々と噂する妻もる子も
 るは奴原へは相撲を好めども心よりぬめの共るは近属のよせはけりし
 甲夜此奴ホ推菟来と云云のるのあまじきその怨を以ては為救再び潜近
 つれけん縛みるは危うし和殿彼処小微りせば遂に大事を恨まてん
 密議をせし奴原され命ハ既ある虫の火虫のこまら死に就くのと自心緒絶
 一と禍の根を断るべくとの小現ハハ西敵を膝小引著壓へし俟小項骨屈と

廻折け苦とをわすれ小叫びも果む諸声脆く目鼻より血を流し死にけりか
 現ハも孟六均太鹹四郎ホが死骸を片隅に推累と物うち被りて掩らる
 信乃の病著速に本復の救びを速く小文吾が苦心を勞ひ引まて大照丈
 木に對面し且妙真と慰め山林夫婦が義死を嘆賞しその子大八の親兵
 衛が犬士たるを祝しける當下小文吾ハ現ハふりかち大飼生の外小立て緯
 の顛末をゆりといふが今さうさうと告るも要る既小と天ハ明ぬらん
 猶豫せが彼帆大夫未夥兵をねむ必要なく縦贖首をりて欺らるるを
 さるよりの不便さる首級を齎しとて官許赴て親を救ふべく
 本てん門をゆきかたりとゆる橋のほとり小撃るは家の釣舟あり水陸とも小
 警固の夥兵未釋去るを見定めと房八沼菡が亡骸のさる人々を舟に乗
 して潜かり市川を山林が宿所まで退れり和殿の前もその地小来りて

大々々案内するべし。因てをさくうち任まらるる多くと密山落ハ現ハゆめくうち
頭。その事ハ心やとらと大塚生と相譚と。もかもさど死ん天ハ既ハ明ハれハ猶も
かう暗くハ今朝ハ始く靄立たあめ。咫尺の間も別々。さまハ鳥の声ハせせ
る。巳の比及るさうせ。この靄決して霽。皇天后土吾黨を祐たまふぞ
わんざんよりや。縁の妨あらずといハ當下、大ハ照文とんく。既ハ
四武士ハ小聚合。御旋を傳ふるや。といハ照文。信乃現ハ小文吾。に
うち對ハ嚮ハも演説せ。おのハ大々。ぬ里見殿。由緒あり。ぬ里印を
受納め。主従の義を固せ。よ。相伴く。安房へか。ぬ美勿論。と。又
えさく。徴書を人別ハ處。与ハけ。信乃ハ。禮。拜受。と。あ。照文。返。り
の。年。某。ハ。幸。ハ。小。尊。藩。小。宿。縁。の。壁。ハ。後。ハ。將。軍。ま。は。管。領。ま。は。徴。さ。せ。め。ふ
とも他。祿。を。受。べ。た。の。め。の。む。ま。も。今。俺。們。五。人。の。外。ハ。又。三。大。士。ハ。わ。ん。ざ。ん。の。い。ま。い。

その人ハ遭さ。その三士ハありや。目今定ふ。い。さ。け。ま。も。額。藏。の。莊。助。ハ。既。ハ
同列の。大。士。ハ。彼。人。ハ。い。さ。の。席。ハ。缺。く。を。い。さ。せん。彼。大。川。莊。助。ハ。故。伊。豆。の。北。條。の。莊。官
あり。大。川。衛。二。獨。子。ハ。その。母。親。ハ。蛭。崎。の。先。考。と。い。え。さ。十。郎。の。後。弟。と。い。え。さ。
實。正。六。年。の。秋。九。月。の。父。衛。二。ハ。横。死。し。妻。子。ハ。追。放。せ。さ。し。け。り。この。年。莊。助。ハ。七
歳。乳。名。を。莊。之。助。と。い。り。母。親。ハ。辛。く。稚。兒。を。携。り。ゆ。り。往。方。ハ。水。長。島。安。房。ハ
親。族。ハ。蛭。崎。の。其。知。り。と。い。り。心。あ。て。ふ。その。冬。の。比。と。い。武。藏。ま。は。才。つ。と。大。塚
の。里。あり。母。親。俄。頃。ハ。力。よ。う。ぬ。せ。あり。莊。之。助。ハ。土地。の。莊。官。幕。六。ハ。小。願。ふ。せ。し
れ。く。額。藏。と。名。つ。け。さ。今。も。ち。母。彼。家。ハ。あ。り。身。ハ。村。落。ハ。成。長。れ。も。武。藝。を。嗜。て
謀。慮。あり。考。め。り。且。信義。を。重。む。實。小。の。が。死。の。豪。傑。ハ。餘。人。ハ。さ。さ。き。某。ハ
彼。莊。助。と。俱。る。や。官。途。ハ。進。ま。ば。是。不。義。ハ。思。意。の。趣。か。の。如。し。賢。察。せ。れ。ば
さ。い。ひ。さ。ん。と。推。辞。ハ。小。文。吾。現。ハ。も。辞。齊。一。亦。ハ。あ。り。某。ハ。願。ふ。所。ハ。大。塚。と。相

山青堂藏

その祖母妙真を俱いの親兵衛おんべゑ既あ小安房おんべゑ亦い自餘いの犬士いを招まむも
 竟い小參聚いのい會道いも下いに故郷いへ還いりて君いの見い糸い入いる願いう
 うぬぬあなねむむむう失いる八顆いの玉いを全いく取いるをいいせんか
 満願いの時い至いる日い小七い犬士いを伴いて見いまはさくぬらうよまそその徵書いの
 野僧い且い預いる大塚い犬飼いも且い市川いまで退いれりて大塚いの里いに赴いれ
 竊い小古い又いの越いを莊助い小生いつてよめい會道い山林い夫婦いの為い小追い薦いの續い經い
 去い後い小彼い如いへ邁いくべきこの茂い小後いひ多いうといいが照い丈い犬い小秋いび別い小四い通い乃い
 徵書いをとう出いる前のい之い通いと共いに大い小處い与いけり當い下い妙真いハ大い照い丈い小
 ほろ近い親兵衛いを果いりてとそといひけるやかろりの推い見いをいあいく安房い
 徵いるものいおれいたいひいふいゆいきいもい三い犬士いを推い辞いさいるい物い数いるいぬ親兵い
 衛いがいひいりい先いもいちいかいるいべいたい退いくいもい進いむいもい人いとい共い侶いとい宣いひいもいん

情いのい今い孫いをいのい徵いもい影い護いくいゆいりいのい理いりいるい小い文い吾いもい外い侄い乃い
 為い小い辞いをい添いくい只い共い侶いとい辞いふいりいさいまいけいきいもい照い丈いついやくい許いとい氣いさいるい
 説い諭いさんいとい争いふいをい大いのい言い小推い禁いめい今い又いあれいらのい問い答い小時いとい親いとい要いるい
 又い親兵衛い小見いといいめいもい亦い是い犬士いのい二い人いもい則い隣い趾い龍い孫いえいれいとい他い領いへ
 措いぐいまいとい今いおいてい安房い邁いるい後い小茂いさいるい屋い死い小あいらいむい丈い五い兵い
 衛いがい還いりいまい外い祖いのい意い見いもいあいらいれい伏い姫いのいおいんい教い珠いハい役い行者いのい通い力いめて
 授いめいゆいめいめいさんいこれいばいあいやい姫い幼い稚いをいせい時いよりい率いれいゆいりいそのい日いでい行者い
 のい示い現いをいくいるい小顧い小目いとい十一い郎いとい犬田い山林いがい甲い乙いをい試いんいとい修い驗い者い小
 打い扮いこのい地い小すいらいるい後いもい四い犬士いをい相い識いるいのい是いもい亦い役い行者いのい利い益いをいあ
 めい親兵衛いがい進い退いもい亦いおいのいづいらい便い宜いあいらいんい朝い露いあいりい立いていあいりいといもい今いもい時い
 程いぬい小文い吾いのい謀いりい小休いもい社い官い許いりいとい促いせい阿いとい信い乃いがい血い著いのい麻

衣の両袖紗羅離と列衣よりと房ハ首を引よるも入て包めども又哭く
 妙真の包るる袖の兩齋間ハ絶く丸人ハ被せざる後の片身衣これハこの世の別
 ごと知れども暮ふ稚見ハ小父さま何処ハ邁多ふ吾侪も俱ゆと黄縁を信乃ハ賺
 引放の糸のりれの苦しめと歎然ハ煩悩の大詞又目をあつら齊悲歎
 考りけるか小文吾ハ腋刀合さく腰小躰首級を右ハ小挫ゆと大照丈ハ別を
 告信乃現ハ後のの緘四郎おが死ハ入江の洲ハと密中ハ謀ハわりと妙真歎
 慰めつ又將大ハ親兵衛ハ玉のるさ小堪ぬ歎然ハ懶惰ハ失ハ心をつつと
 才之起せハ霎時目送るのろ入を立すく迹ハ横ハたわれ夫婦の亡骸の夫ハ舊の
 休るるハ軀と首の死別ハ歎然の霧と眞愛也雲ハ胸も曇く尚暗れ門の戸を卒と
 推あけく翅ををれハ鳥自物朝立遠く出けり。

里見八犬傳第四輯卷之四終

卷之五

第三十九回

第四十回

一葉を浮めて壯士両友を送る
 雲霧を起し神靈小兒残奪ハ
 額藏を誣て奸黨殘毒を逞くハ
 羣小伐射ハ豪傑法場を鬧す

今茲ハめぐり作者の稿本速成るといふも画工傭書のよハ滞り
 右の一卷の手と厠人の刀を卒む時の後とんををそるゆえ又ハ第
 四の巻までを一帙とく此度發販ハ第五の巻ハ張數特ハ多けき發
 二巻とく来巳の早春遲滞ハ嗣出まじくハ原是長編ハ草紙物語ハ
 毎帙五巻と定めらるる釐度ハ出まじく作者の許さる所も實ハ
 ナの己エを得ざるのこまハ莫くハ四方賜顧の看官この帙の巻足らざる
 外口もとまらま來ん春の花ともハ待得て後の巻を閑れハ
 五本を印りてハ冬の花ひとハ春ハさのちハ山青堂欽白

編述

曲亭馬琴稿本



淨書

千形 仲道 騰 寫

繡像画工

柳川 重信



剖刷

中村 喜作 刊 刺

家傳神女湯

一包 婦人諸病の第一產前産後ちのミコト小妙あり又ウチミコト

精製奇應丸

遠一〇大包二百粒餘入代茶中包三十粒代茶下小包十粒代五分

熊膽黑九子

婦人つら虫妙藥 婦人毎月つら虫ありあつたひてあつても神の下り又産後ありあ

製藥并弘所

江戶先飯田町中坂下南側四方みそ店向 瀧澤氏

神田明神下山本所筋同朋町東新道

取次所 江戶芝神明前のつとま市三湯



里見八犬傳第四輯第五之卷

第四輯の内この巻不足付五上下

朝夷巡嶋記第四編

五冊 此巻賣切ヤイ 第五編末歳嗣出

美濃舊衣八丈綺談

全五冊 繪入も本古今未嘗有の因果物語

犬夷評判記

横本全三冊 八犬傳巡島記のひきつらん記なり

越後雪譜

江戸著作堂老人著 越後塩澤鈴木牧之考訂 近刻

秘笈名方

神田 瀧澤興継宗伯算算輯 多く古今の奇方を集む 近刻

文政三年庚辰

大坂斎橋筋唐物町 河内屋太助

刊行書肆

江戸馬喰町三丁目 若林清兵衛

本所松坂町三丁目 平林庄五郎

冬十一月吉日

筋違外神田畷 山崎平八

井川洲校印

